

CITIZEN

2020年度（2021年3月期）

通期決算説明会

シチズン時計株式会社

2021年5月13日

本プレゼン資料における将来予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因により大幅に異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。なお、億円未満は切り捨てになっています。

CITIZEN

2020年度通期業績概要

広報IR室担当の古川です。
これより、2020年度通期業績概要についてご説明いたします。

2020年度通期実績

- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、大幅な減収減益
- 繰延税金資産の取り崩し及び構造改革実施等による特別損失計上により、251億円の当期純損失

2020年度第4四半期（1-3月期）実績

- 工作機械事業、デバイス事業が見通しを上回り、増収赤字縮小

2021年度通期業績予想

- 工作機械事業、時計事業が業績回復
- 売上高 2,600億円（前年同期比 +533億円）
営業利益 100億円（前年同期比 +195億円）

2021年度配当金予想

- 年間配当 14.00円

3

まず、今回の決算の主なポイントについて、ご説明いたします。

2020年度通期決算につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、時計事業を中心に大幅な業績悪化を余儀なくされ減収減益となりました。また、第2四半期において繰延税金資産の取り崩しを実施した他、構造改革を実施したことなどによる特別損失の計上により、251億円の当期純損失となりました。

なお、第4四半期決算は、工作機械事業、デバイス事業が見通しを上回る実績となったことから、増収、赤字幅は縮小となりました。

2021年度の業績予想につきましては、工作機械事業が受注拡大により大きく売上が伸びず見通しである他、時計事業も業績が回復し、黒字転換を果たす見通しです。

売上高は、前年比533億円増の2,600億円、
営業利益は、前年比195億円増の100億円を見込んでいます。

なお、配当金予想につきましては、
業績連動と安定配当のバランスを総合的に勘案し、通期14円とする予定です。

2020年度通期連結業績概要

CITIZEN

(単位：億円)	2019年度 実績	2020年度 実績	前年同期比 増減額	2020年度 2/10予想
売上高	2,785	2,066	▲ 718	2,040
営業利益	61	▲ 95	▲ 156	▲ 105
営業利益率	2.2%	▲4.6%	-	▲5.1%
経常利益	75	▲ 41	▲ 116	▲ 65
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 166	▲ 251	▲ 85	▲ 300
為替レートの影響	¥109/USD ¥121/EUR	¥106/USD ¥123/EUR	-	¥106/USD ¥122/EUR

- 営業外収益：為替差益 8億円を計上
- 特別利益：27億円（投資有価証券売却益、固定資産売却益等）
- 特別損失：123億円（事業再編整理損、新型コロナウイルス感染症による損失、減損損失等）
- 繰延税金資産の取り崩しにより、法人税等調整額 107億円を計上

4

続いて、通期の連結業績についてご説明いたします。

売上高は、2,066億円、前期比718億円減の減収となりました。

営業利益は、販売費および一般管理費を195億円縮小するなどコスト削減に努めましたが、大幅な減収をまかないきれず95億円の損失となりました。

経常利益は、為替差益8億円の計上などにより、41億円の損失となりました。

また、特別利益として、投資有価証券の売却や固定資産の売却に伴う27億円の計上がありましたが、第2四半期に行った繰延税金資産の一部取り崩しや、特別損失の影響が大きく、

親会社株主に帰属する当期純利益は251億円の損失となりました。

2020年度通期セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	2019年度 実績	2020年度 実績	前年同期比 増減額	2020年度 2/10予想
売上高				
■ 時計事業	1,416	956	▲ 459	955
■ 工作機械事業	585	467	▲ 118	455
■ デバイス事業	559	459	▲ 100	450
■ 電子機器他事業	224	183	▲ 40	180
合 計	2,785	2,066	▲ 718	2,040
営業利益				
■ 時計事業	39 (2.8%)	▲ 81 (▲8.6%)	▲ 121	▲ 80 (▲8.4%)
■ 工作機械事業	72 (12.4%)	29 (6.3%)	▲ 43	25 (5.5%)
■ デバイス事業	9 (1.7%)	▲ 4 (▲1.1%)	▲ 14	▲ 10 (▲2.2%)
■ 電子機器他事業	▲ 2 (▲1.0%)	3 (2.1%)	+ 6	2 (1.1%)
消去又は全社	▲ 57	▲ 41	+ 15	▲ 42
合 計	61 (2.2%)	▲ 95 (▲4.6%)	▲ 156	▲ 105 (▲5.1%)

5

セグメント別の通期業績はご覧の通りになります。

読み上げは省略しますが、業績予想対比で申し上げますと、時計事業は予想通りの業績となりましたが、工作機械、デバイス事業が上振れ、売上高、営業利益ともに予想を上回る結果となりました。

4Q

完成品販売

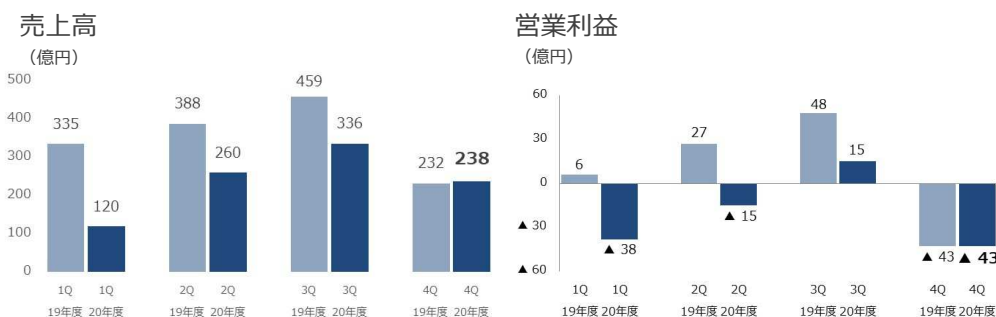
- 海外市場：中国が好調継続。北米はEC販売が堅調。欧州は活動制限等により伸び悩み
- 国内市場：全体的な消費意欲の減退を受けながらも、新製品等が堅調に推移

ムーブメント販売

- 機械式ムーブメントが堅調。アナログクォーツも回復傾向で推移

通期

- 完成品は主力の国内・北米市場の落ち込みが大きく大幅減。ムーブメントは構造改革を実施



6

それでは事業別の業績概況について、第4四半期を中心にご説明いたします。
まず、時計事業です。

第4四半期の売上は238億円、前年比5億円の増収となりました。

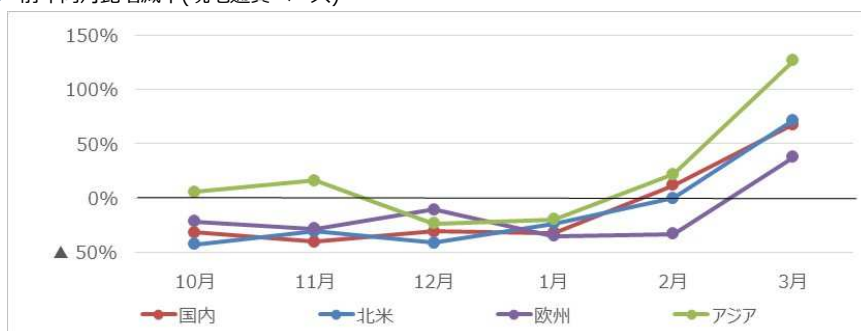
完成品販売は、中国がEC販売を中心に大きく売り上げを伸ばすなど好調さを保ったほか、北米も消費が上向き傾向となり、順調に推移しました。一方で、欧州は再び新型コロナウイルスの再拡大に伴う活動制限が実施され、消費の回復は弱いものとどまりました。

国内は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け消費が低迷しているなか、「コズミックブルーコレクション」などのブランド横断企画商品が順調に売り上げを伸ばしたほか、中核ブランドのxC、ATTESAの売り上げが回復基調となり、健闘しました。

ムーブメント販売は、引き続き機械式ムーブメントの売上が堅調に推移した他、アナログクォーツの需要も回復傾向にあり、市場が徐々に活発化しつつあります。

営業利益は、長期滞留在庫の処分及び評価減の一時費用、約15億円が発生したことから、43億円の損失となり、前年並みとなりました。

■ 前年同月比増減率(現地通貨ベース)



■ 前年同期比増減率(現地通貨ベース)

	4Q	
国内	+9%	新型コロナウイルスの感染再拡大を受けブレーキが掛かるも、内需は回復基調を維持。
北米	+1%	EC販売の好調が下支えとなり前年並みを維持。
欧州	▲20%	各地で店舗が休業となり苦戦。イタリア、スペインは都市封鎖のあった前年を上回る。
アジア	+22%	中国はEC販売の好調に加え実店舗も上向き。香港、台湾等他アジア地域も回復基調。

※ 北米のみCITIZENブランドとBULOVAブランドを合算した増減。その他の地域はCITIZENブランドのみの増減。

地域別の前年同月比の完成品販売状況です。

国内は、赤の折れ線ですが、2月以降前年を上回って推移していましたが、4月下旬より消費の回復が減速しているため、今後の動向を注視していく必要があります。

北米は、青の折れ線です。観光客向けの流通以外は、総じて積極的な仕入れに転じてきています。

紫色の折れ線は欧州ですが、経済活動の制限などのため、売上の回復が遅れていますが、改善傾向にあります。

黄緑色の折れ線は中国・アジアです。中国は好調な販売を維持しており、また昨年の同時期に売上が大きく落ち込んだこともあり、最も高い増収率となっています。

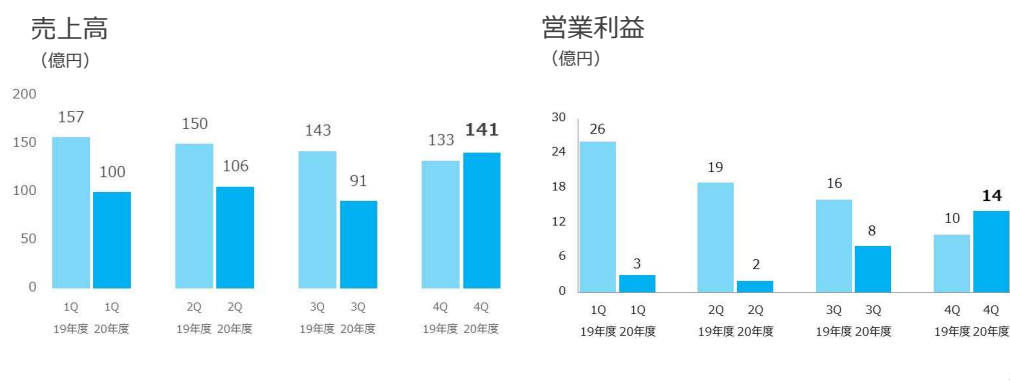
足元の4月の販売状況についてですが、海外の販売につきましては、一昨年、2019年度との対比で増収に転じており、特に米国の消費が急回復し、順調なスタートを切っております。

4Q

- 国内市場：設備投資への慎重姿勢から売上高は伸び悩むも、受注は回復傾向
- 海外市場：中国を中心にアジア地域が好調に推移。欧州、米州も上向き

通期

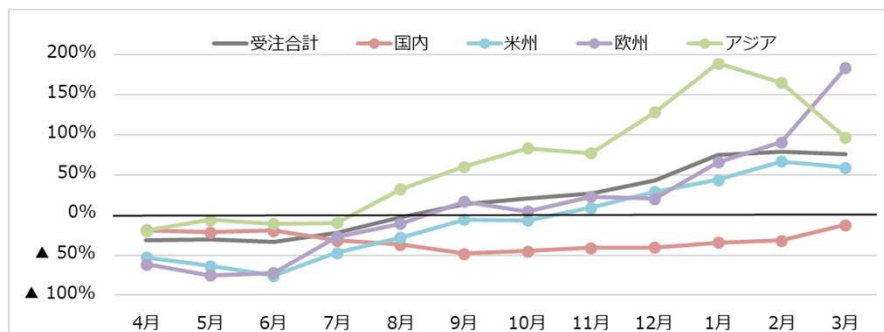
- 上期の設備投資需要が低調に推移し減収減益となったが、中国を中心に海外市場が急回復



工作機械事業の業績概況を説明いたします。

第4四半期の売上は141億円、前年比8億円の増収、営業利益は14億円、前年比4億円の増益となりました。
年明け以降、高水準の受注が継続し、また売上も上振れました。

■ 前年同月比増減率(3カ月移動平均受注台数)



■ 前年同期比増減率(四半期受注台数)

	4Q	
● 受注合計	+76%	
● 国内	▲12%	設備投資の様子見姿勢から回復は弱いものの、徐々に上向き傾向。
● 米州	+59%	医療関連を中心に受注が急回復。ジョブショップからの受注も大幅増。
● 欧州	+183%	自動車関連が大幅増。機械設備等のその他の業種も好調に推移。
● アジア	+97%	延期されていた設備導入が再開されるなど回復基調。中国も好調を維持。

9

地域別の前年対比の受注状況です。
海外向けを中心に受注が急回復しています。

赤い折れ線の国内は、投資の様子見姿勢が続いておりますが、引き合いが増加傾向にあり、受注額は徐々に上向いています。

水色の折れ線は米州です。秋口より、医療関連の設備投資が再開され、ジョブショップ等からの受注も伸びています。

欧州は、薄紫の折れ線です。年明け以降、遅れていた自動車関連の投資が上向いて、幅広い業種から受注が増加しています。

黄緑の折れ線は、中国を含むアジアです。IT、スマートフォン関連の他、医療、自動車関連の受注も増加しています。

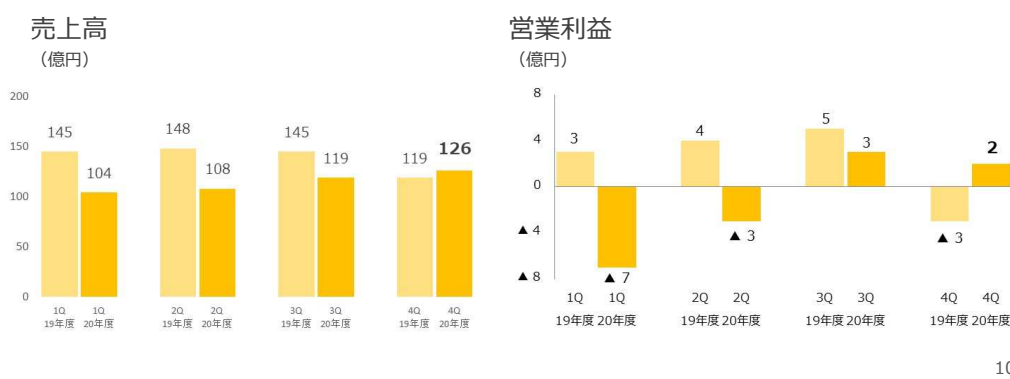
2021年度は、増加した受注残の生産対応や、短手番納期の注文の対応などが業績達成の鍵となってきます。

4Q

- 精密加工部品：新車販売台数の増加に伴い自動車部品が伸長。スイッチも回復傾向
- オプトデバイス：照明用LEDも受注は復調。車載向けLED等が売上に寄与

通期

- 精密加工部品が下期以降堅調に推移したものの、オプトデバイスは照明用LEDが低迷



最後に、デバイス事業の業績についてご説明いたします。

第4四半期の売上高は、126億円、前年比6億円の増収、営業利益は黒字転換し、2億円となりました。

精密加工部品については、自動車部品が新車販売台数の回復に伴い、好調を維持し増収増益となりました。スイッチもスマートフォン向けの販売が回復し、増収となりました。

オプトデバイスのうち、照明用LEDは、欧米市場の需要減退により減収となりましたが、受注については、中国、国内など増加傾向となっています。一般LEDは車載向けやゲーム機向けが売り上げに貢献しました。

水晶デバイスやセラミックスなど、その他の部品も堅調に推移しました。

2021年度通期連結業績予想

CITIZEN

(単位：億円)	2020年度 実績	2021年度 予想	前年同期比	
			増減率	増減額
売上高	2,066	2,600	+25.8%	+534
営業利益	▲ 95	100	-	+195
営業利益率	▲4.6%	3.8%	-	-
経常利益	▲ 41	110	-	+151
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 251	90	-	+341
為替レート	¥106/USD ¥123/EUR	¥105/USD ¥125/EUR	-	-

11

次に、2021年度の業績予想について、ご説明いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により大きく落ち込んだ2020年度に対し、主力事業が増収増益となる見通しです。

売上高は2,600億円、営業利益は100億円の見通しです。

工作機械事業において、受注急回復に伴う売上げが見込まれている他、時計事業の消費の回復により、増収増益を見込んでいます。

経常利益は110億円、

親会社株主に帰属する当期純利益は、90億円の見通しです。

なお、為替レートは1USD=105円、1EUR=125円を前提としております。

2021年度通期セグメント別業績予想

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

売上高	2020年度 実績	2021年度 予想	前年同期比	
			増減率	増減額
■ 時計事業	956	1,240	29.7%	284
■ 工作機械事業	467	670	43.4%	203
■ デバイス事業	459	510	11.1%	51
■ 電子機器他事業	183	180	▲2.1%	▲3
合計	2,066	2,600	25.8%	534
営業利益				
■ 時計事業	▲81 (▲8.6%)	40 (3.2%)	-	121
■ 工作機械事業	29 (6.3%)	90 (13.4%)	206.6%	61
■ デバイス事業	▲4 (▲1.1%)	15 (2.9%)	-	19
■ 電子機器他事業	3 (2.1%)	5 (2.8%)	26.8%	2
消去又は全社	▲41	▲50	-	▲9
合計	▲95 (▲4.6%)	100 (3.8%)	-	195

12

セグメント別の通期業績予想です。

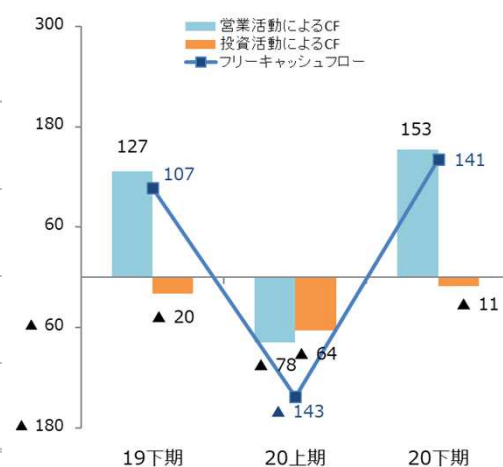
時計事業は30%の増収、工作機械事業は43%の増収と大幅な回復を見込んでいます。

デバイス事業も11%の増収を見込んでいますが、電子機器他事業は体温計の特需が一巡することから、若干の減収を見込んでいます。

キャッシュフロー計算書

CITIZEN

(単位：億円)	20上期	20下期	前年 同期比 増減額
営業活動によるCF	▲ 78	153	+232
投資活動によるCF	▲ 64	▲ 11	+52
フリーキャッシュフロー	▲ 143	141	+284
財務活動によるCF	333	▲ 150	▲ 484
現金及び現金 同等物残高	976	995	+19



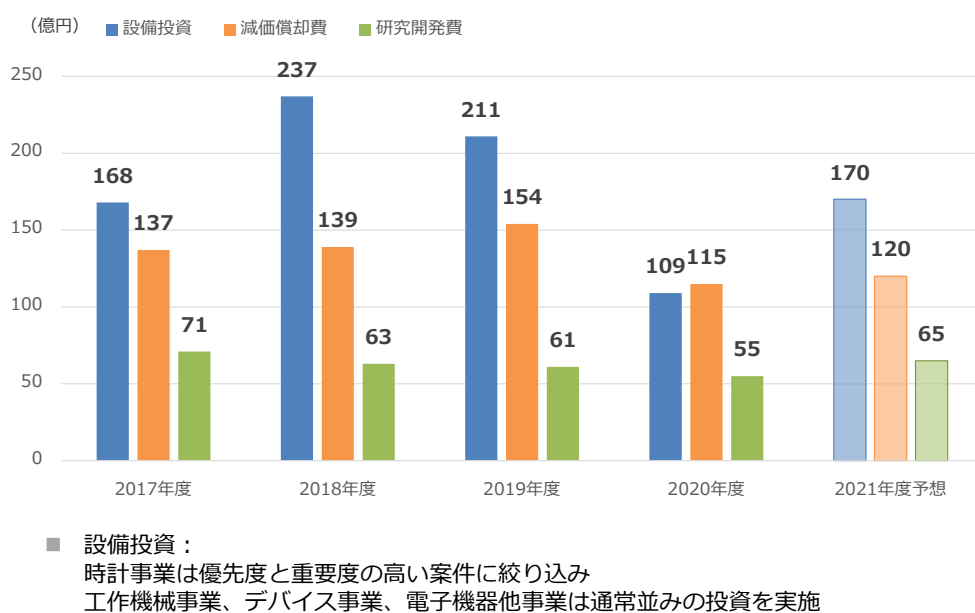
- 営業活動によるCF：収益性の改善及び時計事業を中心とした在庫削減により増加
- 投資活動によるCF：政策保有株式や固定資産の売却により支出減少

13

続きましてキャッシュフロー計算書になります。

下期の営業活動によるキャッシュフローは、収益の改善と時計事業を中心とした在庫削減により153億円のプラスとなりました。

投資活動によるキャッシュフローは政策保有株式の売却などもあり11億円のキャッシュアウトにとどまり、フリーキャッシュフローは141億円のプラスとなりました。なお、財務活動は、借入金の返済等により、150億円のマイナスとなっております。



設備投資につきまして、2020年度は重要度の高い案件に絞り込んで行ったことから、109億円となりました。

また、2019年度に減損損失を実施したことにより、減価償却費も減少しました。

2021年度の設備投資は、170億円の見通しとなっております。工作機械事業の能力増強など、投資を拡大していく予定です。

以上で、私 古川からの説明を終わります。

	中期経営計画 (2021年度)	業績予想 (2021年度)
売上高	3,700億円	2,600億円
営業利益	300億円	100億円
ROE	8.0%	4.0%

※ROE = 当期純利益 ÷ 自己資本

- 新型コロナウイルスの影響により中期経営計画で想定していた市場環境からは大きく変化しており、特に時計事業の市場環境は悪化
 - ・世界的な実店舗の営業短縮、閉鎖
 - ・国内におけるインバウンド需要の消滅
- 2021年度、時計事業の市場環境は徐々に回復に向かっているものの、新型コロナウイルスの影響は続く見通しであり、中期経営計画で掲げた売上高、営業利益、ROEは目標を下回る見通し

代表取締役社長の佐藤です。

2019年度から中期経営計画をスタートさせ、今年度2021年度が最終年度となりますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中期経営計画の策定時に想定していた市場環境は大きく変化し、主力の時計事業の業績は大きく悪化しました。

2020年度は大変厳しい結果に終わり、本日公表した2021年度の通期業績予想は業績回復を見込んでいるものの、残念ながら中期経営計画で掲げた目標指標に対して大きく乖離しています。

しかしこの間、中期経営計画で掲げた施策を着実に推し進めてまいりました。

EC販売の強化

- 米国：EC比率が増加し、直販EC販売も拡大
- 国内：直販EC販売、AIウオッチレコメンドサービス、FTSサービスを開始
- 中国：主要EC商戦向け商品を強化し、販売は前年比増。越境ECも堅調に推移

ムーブメント事業の再構築

- アナログクォーツムーブメントの需要減少に伴い生産規模の適正化を実施
- 機械式ムーブメントの生産合理化・自動化推進によるコスト削減を実施

機械式時計の中長期的な拡充

- スイスのラ・ジュール・ペレ社の技術を活かした機械式新ムーブメントを開発
- 新ムーブメントを搭載した「The CITIZEN」のグローバルローンチ
- 機械式新ブランド「Series 8」のグローバルローンチ



16

まず、時計事業は、米国や中国を中心にEC販売の強化を加速したことで、下期には大きく落ち込んだ実店舗販売を補うなど、コロナ禍の状況で一定の成果を上げることが出来たと考えております。

また、普及価格帯時計の市場縮小に伴う売り上げの減少という課題を抱えていたムーブメント事業は、構造改革を実施し、市場規模に合わせた適正な生産体制を整えました。足元の需要は改善傾向にあり、今後の業績回復を見込んでいます。

そして今後の新たな戦略として、「ザシチズン」や「シリーズ8」といった機械式時計の新シリーズを投入いたします。エコ・ドライブを搭載したアナログクォーツ時計が中心だったシチズンブランドに、機械式という新たな選択肢を加えることで、さらなる顧客創出を図ってまいります。

オンラインを活用した取り組み

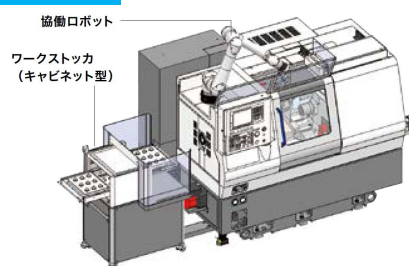
- 国内外でオンラインプライベートショーを開催し、新製品や加工技術等を紹介
- オンラインを活用した稼働監視システム支援、プログラミング教育を実施

中国の生産能力強化

- 中国市場の需要拡大に伴う生産能力増強のため、2021年夏に中国新工場へ移転・拡張予定

製品のさらなる自動化・省力化

- 協業ロボット(FAフレンドリー)システムを導入した製品を開発
- 効率的かつスピーディーに複雑加工ができる自動工具交換装置(ATC)機能を独自開発
(日刊工業新聞社 機械工業デザイン賞IDEAを受賞)



17

工作機械事業は、昨年度下期から中国を中心に受注が急回復しており、今期は先進国も含めて本格的な回復局面になっていく見通しです。昨年度は、コロナ禍の中、初めて国内外でオンラインを活用した展示会を開催しましたが、お客様からの評価も高く、旺盛な受注を獲得することが出来ました。また、今後の上昇トレンドを見据えて移転、拡張を進めてきた中国工場が、夏には稼働を開始する予定です。

この2年間の取り組みは、成果発現にはまだ至っていませんが、今期以降の着実な業績回復につながる下地作りが出来たと思っております。今期も新型コロナウイルスの感染拡大に終息が見通せない状況となっておりますが、業績回復に向けて、強い決意で取り組んでまいります。

皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

CITIZEN

貸借対照表

CITIZEN

(単位：億円)	2020年 3月末	2021年 3月末	前年度 末比 増減額	(単位：億円)	2020年 3月末	2021年 3月末	前年度 末比 増減額
流動資産	2,356	2,444	+87	負債	1,387	1,529	+141
現金及び 預金	801	1,018	+216	有利子 負債	551	748	+197 ②
① 棚卸資産	1,011	902	▲ 109				
固定資産	1,339	1,213	▲ 125	純資産	2,307	2,128	▲ 179
有形固定 資産	785	759	▲ 25	株主資本	2,201	1,937	▲ 264
投資有価証券	334	333	▲ 1	為替換算調整勘定	▲ 10	48	+59
資産合計	3,695	3,658	▲ 37	負債・純資産 合計	3,695	3,658	▲ 37

① 時計事業、工作機械事業を中心とした棚卸資産の減少

② 長期借入に伴う有利子負債の増加

(単位：億円)	4Q	4Q	前年同期比 増減額	4Q
	2019年度実績	2020年度実績		2/10予想
売上高	535	555	+19	528
営業利益	▲ 50	▲ 34	+16	▲ 44
営業利益率	▲9.5%	▲6.3%	-	▲8.4%
経常利益	▲ 48	▲ 14	+33	▲ 38
親会社株主に帰属する当期純利益	▲ 236	▲ 32	+204	▲ 80
為替レートの	¥109/USD ¥120/EUR	¥104/USD ¥127/EUR		¥105/USD ¥125/EUR

2020年度第4四半期（1-3月期）セグメント別業績推移

CITIZEN

(単位：億円 / %：営業利益率)

	4Q 2019年度実績	4Q 2020年度実績	前年同期比 増減額	4Q 2/10予想
売上高				
■ 時計事業	232	238	+5	237
■ 工作機械事業	133	141	+8	129
■ デバイス事業	119	126	+6	117
■ 電子機器他事業	49	47	▲1	44
合計	535	555	+19	528
営業利益				
■ 時計事業	▲43 (▲18.7%)	▲43 (▲18.3%)	+0	▲41 (▲17.6%)
■ 工作機械事業	10 (7.8%)	14 (10.2%)	+4	10 (7.8%)
■ デバイス事業	▲3 (▲3.0%)	2 (2.1%)	+6	▲2 (▲2.1%)
■ 電子機器他事業	▲2 (▲4.6%)	2 (5.1%)	+4	0 (1.1%)
消去又は全社	▲11	▲10	+0	▲10
合計	▲50 (▲9.5%)	▲34 (▲6.3%)	+16	▲44 (▲8.4%)